

# 著書紹介

著者自らが新刊を紹介します。

## やわらか ロジカルな話し方

創造表現学部・准教授・  
富樫 佳織

- ▶ 四六判 ▶ 272ページ
- ▶ クロスメディア・パブリッシング
- ▶ 1,480円+税
- ▶ 2017年4月17日発行
- ▶ 「一生懸命話しているけど伝わらない」「話が長いと言われる」、一方で「話はまとまっているが冷たい印象を受ける」といったコミュニケーション力向上で悩む人が増えています。そんな課題を解消するために「ロジカル」かつ相手の気持ちに寄り添う「やわらか」な表現法とは。



## ハイブリッド・リーディング

新しい読書と文字学

創造表現学部・  
メディアプロデュース専攻・  
准教授・阿部 卓也(共著)

- ▶ A5判 ▶ 280ページ
- ▶ 新曜社 ▶ 2,900円+税
- ▶ 2016年8月31日発行
- ▶ 人間の「よみ／かき」という活動は、デジタルでいかに変容するのか?紙と電子が融合する書物の未来とは?人文知とデザイン実践を横断して多角的にテーマに迫る論集。企画・構成・編集・装丁デザインを担当し、テキスト4編を執筆。本とAR(拡張現実感)アプリの連動企画も。



## 模型のメディア論 時空間を媒介する「モノ」

創造表現学部・講師・  
松井 広志

- ▶ A5判 ▶ 242ページ
- ▶ 青弓社 ▶ 3,000円+税
- ▶ 2017年8月9日発行
- ▶ 模型という「モノ」は、何らかの「実物」を媒介する「メディア」になっているのではないか。この視点から、日本社会における模型の変遷を、戦前・戦中・戦後と歴史的に分析した。さらに、「モノ」と「メディア」の関係についての理論的考察も行っている。



## なぜ世界の幼児教育・ 保育を学ぶのか

福祉貢献学部・教授・  
白石 淑江(共著)

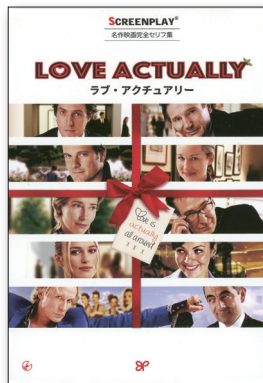
- ▶ 菊判 ▶ 380ページ
- ▶ ミネルヴァ書房
- ▶ 3500円+税
- ▶ 2017年5月30日発行
- ▶ 近年の研究は、乳幼児期の生活と教育の質がその後の子どもの人生のみならず社会全体に大きな影響を与えることを明らかにしている。積極的に保育改革を進める世界10か国の取り組みを省察し、日本が抱える保育問題解決の糸口を探る。そのうちの「スウェーデン王国」を担当した。



## ラブ・アクチュアリー (スクリーンプレイ・シリーズ 178)

文学部・教授・榎木 勇作(共著)

- ▶ B6判 ▶ 181ページ
- ▶ フォーイン スクリーンプレイ事業部
- ▶ 1,600円+税
- ▶ 2016年12月1日発行
- ▶ クリスマスのロンドンを舞台とする映画の英語および日本語訳で編集した完全セリフ集。セリフの英語の「この映画の英語について」のコラムで、イギリス英語とアメリカ英語の違いについて発音・語彙・文構造・コロケーションなど英語学の観点からの分析を担当した。



## 情報検索講義

人間情報学部・教授・  
伊藤 真理(共著)

- ▶ B5判 ▶ 122ページ
- ▶ 樹村房 ▶ 1,300円+税
- ▶ 2016年9月16日発行
- ▶ 「自ら考え、自分なりの答えを出す」力を身につけるためのワーク式教科書。学生は、例題や演習問題により、情報探索に有効なツールの効果的な利用、得られた情報の適切な評価と問題解決までの一連の流れを実践的に学ぶことができる。教員用資料を別途準備し、授業支援を工夫した。

